

## 「入間野中いじめゼロ宣言」～誇りと責任を持って

入間野中学校生徒会

「入間野中いじめゼロ宣言」(原田)

い 私たちはいじめを許しません(全員)

る いじめをやめ、とめる勇気を持ちます(全員)

ま まわりをよく見て、思いやりの心を大切にします(全員)

の そして、みんながのびのびと明るく過ごせる学校を目指します(全員)

入間野中学校は、3年前に入間中学校との統合で、新生入間野中学校として誕生しました。後ろのロゴは、これを記念して、生徒会でデザインを公募し作成したものです。学ランの入間中と現在のこの制服の入間野中の生徒が仲良く手を取り合っています。このロゴは入間野中生徒会の財産です。(松下)

そして、統合の年に、生徒会が作ったもう1つの財産と言えるものがあります。それが、入間野中いじめゼロ宣言です。

統合の前の年、私たちの先輩である、当時の生徒会本部役員は、統合後の生徒会活動が円滑に進むようにと情報交換の場を待ちました。いろいろな意見が交換された中で「いじめゼロ宣言」についての話題がでました。当時、入間中学校には、生徒会で採決した「いじめ撲滅宣言」がありました。しかし、入間野中学校にはありませんでした。統合後、先輩たちは学校が合わさったためにいじめが起きるのではないかと心配しました。いじめが起らない学校であってほしい。「いじめ撲滅宣言」を創ろう。話し合いの末、統合後にそれぞれの学校出身の本部役員が協力しあって、入間野中いじめゼロ宣言を作っていこうと約束したそうです。(寺本)

そして、約1年かけてその約束は実現されました。「入間野中いじめゼロ」が誕生したとき、僕たちは1年生でした。(原田)

いじめゼロ宣言には、「生徒の力で安心して生活できる学校をめざしたい」という高い理念と熱意が込められていました。現在、私たちは生徒朝会のときに毎回、この宣言を全校生徒の前で読み上げています。(宮崎)

昨年11月に生徒会でいじめに関するアンケートを実施しました。

「いじめゼロに対して生徒会が積極的に関わっているか？」という質問に対して、88%の生徒が「はい」と答えました。

これは、「いじめゼロ宣言」が生徒会活動として広く認知されていることを示しています。しかし、「いじめゼロ宣言を意識した行動をとってきたか？」という質問に対して「ハイ」と答えた生徒は44.3%という結果にとどまりました。

これは「いじめゼロ宣言」はあってもみんなが意識を持って生活しているわけではない、ということを示しています。宣言があることイコールいじめがないということではない。宣言を作るときに本部の先輩方が持っていた理念を形だけにとどめてはいけない、と私たちは実感しました。

私たちは「いじめゼロ宣言」が風化しないように、先生の協力のもと、いじめゼロ宣言ができるまでをまとめたドキュメンタリービデオを作成しました。

そのVTRを用意しました。ご覧になってください。(江口)

「誇りと責任を持ってこの入間野中いじめゼロ宣言をひきつぐ…」統合時の生徒会長はこう私たちに伝えました。

入間野中学校は統合3年目を迎えました。私たちのあとの代は「いじめゼロ宣言を作る」という実際の体験をしていません。私たちは「いじめゼロ宣言」が自分たちの手で採決できたという貴重な体験を「誇り」に感じています。そして、いじめゼロに対する責任を持って、この学校のよい伝統として、形だけでなく、さらに具体的なものとして残していかなければならないと思っています。

私たちはみんな違う個性を持っています。学校内ではその個性が原因で、意見が衝突することがあります。個性の異なる人同士がぶつかり合うことは当たり前のことです。しかし、その解決を捻じ曲げてしまった結果がいじめであるとしたら、それは違います。(和田)

いじめだと感じたら、それを勇気を持ってとめるべきです。

まわりをよく見て、思いやりの心を大切にすべきです。

しかし、実際に起きたいじめについては、もしかしたら、生徒たちだけの手では解決が難しいかもしれません。「いじめゼロ宣言」に誓った行動がとりやすいように、大人の方の応援がほしいです。先生方や保護者の方、地域の方、ここにいるすべての方に私たちの作った「いじめゼロ宣言」を応援していただけたら、心強いです。(冨永)

昨年は11月に生徒朝会を利用して、「いじめゼロ宣言」を確認する会を行いました。先ほどのVTR視聴もこの時に行いました。今年度も11月～12月に「いじめゼロ宣言」を風化させないための取り組みを全校集会で行おうと本部役員の中で話し合っています。

私たちは、生徒会の財産であり統合の証でもある「いじめゼロ宣言」をその理念とともに引き継いでいこうと思っています。それは、私たちの使命であるとも感じています。(福田)

私たちは入間野中学校の生徒であることに誇りを持っています。

「誇り」と「責任」を持ってこの使命に立ち向かっていきたいと思います。(和田・生和)